

全国の最新情報 必ず学べる総合的学習の授業 わが県の一押しはここだ！

石川県

伝統文化を 活かした総合

黒上 晴夫

(金沢大学教育学部)

石川県での総合的学習のひとつの目玉が伝統文化だろう。加賀友禅や輪島塗などの伝統工芸や和菓子・加賀料理などの伝統的な食文化は格好のテーマになる。

金沢市立明成小学校は、地の利を活かして友禅作家を学校に招き入れ、一緒に染めを行った。その過程で工芸作品を作る工程の複雑さを体験でき、手工技術の素晴らしさを感じることができた。

もう一つのポイントは、伝統工芸とコンピュータの組み合わせにある。彩色工程で自分で描いた図案にコンピュータで色をのせて全体のバランスを試すのに利用したのである。これによって、体験に自分なりの価値判断を織り交せることが可能になった。このような伝統文化に触れる試みは、必ずしも伝統工芸の担い手を育成するものではなく、文化の消費者としての態度を培い、ひいては文化を守ることを意味を考えさせることにもつながる。

福井県

子どもの思いと教師の願いを、プロジェクト活動の中に実現すること

森 透

(福井大学地域科学部)

三つの実践校を紹介したい。第一は、文部省の「総合的な学習の時間」研究開発校の福井市立杜西（やしろにし）小学校。「豊かな心で、自ら考え、表現できる子をめざして」をテーマとして、地域に根をおろした二年目の実践にチャレンジ中。追究する力・表現する力・共に学ぶ力の形成をめざし、子どもと教師が共同してつくりあげている。

第二は福井大学附属小学校で、「自己を拓き、ともに生きる力を育む」を主題として、教科学習と総合学習を両輪としてともに形成する視点で実践中。探究・表現・練り合いの力をつけながら、子どもと教師・保護者による学びの共同体づくりを目指している。第三は私立かつやま子どもの村小学校。山の大自然の中にある小さな学校であるが、子ども達のプロジェクト活動を中軸に据え、ニール（英）とデュイ（米）の思想から学んで実践している。

山梨県

小・中の連携・関連のあり方を考える

守木 貴

(樹形町立樹形中学校)

本年度、山梨大学教育人間科学部附属小学校と同附属中学校は、互いに情報を交換しあいながら教育課程の研究を進めている。

同附属小は、平成十一年度まで研究開発学校の指定を受けた。本年度も継続指定を受け、「教科領域」（既存の九教科）と「総合領域」（総合学習）「心と実践」「パソコンタイム」による教育課程を編成実施している。

同附属中も、平成十一年度より研究開発学校の指定を受けている。同校は、附属小の卒業生百二十名と新規募集四十名で各学年を構成する。既存教科等に加えて、「SELF-A」（生き方学習）「SELF-B」（福祉・環境・国際理解）「CML」（コンピュータメディアリテラシー）があり、附属小の教育課程と関連する点がある。

両校は、平成十三年二月に開催日を連続させて（八日に附属中、九日に附属小）初等中等公開研究会を行う予定である。

長野県

これからが楽しみな 学校二つ

布谷 光俊

(信州大学教育学部)

付属長野小・松本小、伊那小、高島小などは、県外にもよく知られた先進校であるが、今回は、これからが楽しみな学校二つを紹介しよう。

一つは、移行期から本格実施並の時数で「松風プラン」をスタートさせた東筑摩郡波田小である。「まつかぜ」とは、校地内の広大な松林への思いと「学び合おう」「続けよう」「輝こう」「全員で」の頭文字でもある。クラスタム、テーマタイム、フリータイム、スクールタイムなどを設けて実施する。

もう一つは、来る七月七日に、地元研究会の県大会（一般参加可）として公開授業を予定している長野市吉田小である。子どもが対象に思いを深め、自ら「生活を切り開く」「問題を乗り越える」「人間関係を切り開く」「視野や学びを切り開く」「思いを表し、伝え合う」などの具体の姿を目指している。

岐阜県

自分の住む町を徹底的に学ぶ ―柳津小のいすみ学習の「柳津海底探検隊」―

村井 敏幸

(各務原市立那加第二小学校)

地域を学習し、地域の教育力を生かして学習を展開していくことは総合的学習の時間として大切な視点である。

六年生で展開されるこの実践は、共通のテーマとして「柳津へのこだわり」をかかげ、すべての子どもがこだわって町を見て、町を学び、町に住む人々から謙虚に学ぶところが共感を覚える。

町内を流れる境川の水质の問題・高齢者の問題をはじめ様々なことがらについて地域の方から聞き取りや体験をして学び、そこから問題意識を確かなものにしていくという点は、問題解決が明確に設定されている。

そして、学んだことをもとにして、将来の町づくりについて具体的に子どもたち一人一人が意見を持ったり、町に提言していたりする取り組みが行われる。頼もしい子どもたちの姿が目に見えてくる授業である。

静岡県

地域貢献的活動と 弾力的時間の運用

馬居 政幸

(静岡大学教育学部)

静岡県総合教育センターでは、「平成十年度研究紀要第三号別冊」で「横断的・総合的な学習のきざし」といえる実践事例を収集し、特徴分析している。二つ紹介する。

一つは環境教育を地域貢献的な活動に発展させた静岡市立千代田東小学校の実践である。学区に流れる巴川にメダカがいない理由を大学で実験分析して追究し、自分たちでできることを考え実践した。クリーン作戦では地域や保護者にも参加を呼び掛け、共に活動するなど「開かれた学校」の第一歩となっている。

もう一つは、モジュールタイムを導入し、午前中授業、午後は教科の内容にとらわれない自由な活動を行う「わくわくタイム」という日課・週課を組んでいる浜松市立鴨江小学校である。四年生では、火曜の午後は学年クラブ、木曜は郷土を知ろう大作戦としてウォークラリーを行う等、楽しさの中で社会性、創造性、主体性を育てている。

授業参観ハンドブック

見るポイント 25

特集



役に立つ授業参観のノウハウと聞かれたら

明石要一／木村重夫／新見謙太

総合的学習の授業を見る「新しいモノサシ」私の提言

地域と共に育てる「豊かな心と生きる力」
生活者として経験的に学ぶ感覚が磨かれているか
批判的精神と制度の充実
教師がやるべきことをしているか

谷川 和重 10
高橋 勝 12
池田 幸夫 14
大森 修 16

●授業を公開する側からの発信●（二を見て欲しい「総合的学習の公開授業」）

へ仕掛く構造Vを見る
子ども一人一人の課題追究の姿
どう「総合」させ、子どもたちはどう「総合」しているか
子供の心が開かれているか

松本 博史 18
林 修 20
宗我部義則 22
倉沢 均 24

総合的学習の研究冊子「どこを見るか」

「生きる力」の源泉は「生きる喜び」の実感にある
先進校の研究プロセスに学ぶ
自校ならではの教育プログラムに生かす
「見方」や「考え方」を探ろう

佐藤 宏武 26
米澤 孝雄 28
石堂 行文 30

総合的学習らしい授業の見方を求めて

“子ども”のどこを見ればよいか
“教材”のどこを見ればよいか

宇田川浩樹 32
勝見 健史 35

“カリキュラム”のどこを見ればよいか
“年間計画”のどこを見ればよいか
“単元構成”のどこを見ればよいか
“学習活動の流れ”のどこを見ればよいか
“教師の指導”のどこを見ればよいか

田中 耕治 38
出口 和生 41
北 俊夫 44
辻 延浩 47
佐藤祐一郎 50

△全国の最新情報△

必ず学べる総合的学習の授業…わが県の一押しはこれだ！

総合的学習を参観して…巷にあるブーイングと私の意見

美しく整えようとしてはいけない
やり過ぎて迷惑？！

小貫 義智 66
末永 澄子 67

ドイツの総合的学習現場レポート③

子供理解Ⅱそれは別の教え方を学ぶこと——寺尾 慎一 68

総合的学習です——英語活動、おすすめスポット③

英語の表現をきちんと身につける——香川県仁尾小学校——影浦 攻 70

スーパースクールが創る総合的な学習③

横浜市立本町小学校——佐藤恭子先生——田中 博之 72

ポートフォリオが育てる新しい能力・評価③

評価の枠組み——鈴木 秀幸 76

環境体験活動のワールドカップ③

台所の食材で草木染めに挑戦——大曲美佐子 78

〔研究会案内〕日本国際理解教育学会第10回大会／神戸大学附属住吉小学校／北海道教育大学附属札幌小学校／第38回教育研究会

全国大会／北海道教育大学附属訓路小学校／全国個性化教育研究連盟・学期研究会
表紙3・4／「総合的な学習の時間」で使えるインターネット情報アラカルト（成田雅博）